

第40回全国高等学校体操競技選抜大会参加資格者一覧表（男子）

令和6年1月31日 現在

1班（午前に競技）					
No.	選手名	学年	都道府県	学校名	解説
1	上澤 幹太	2	埼玉	埼玉栄	※No.1～No.8は、No.51～60に 続く8名。 手順② 1・2年生を上位（No.51）から 並べ、下位に3年生を並び 替える。
2	大矢 龍翔	2	東京	駒澤大学	
3	今出 雄晴	2	京都	洛南	
4	白神 日向	1	岡山	関西	
5	佐藤 大介	2	京都	洛南	
6	溝田 稜樹	2	愛知	名城大附属	
7	土屋 真人	2	愛媛	新田	
8	淵上 宗太	2	大阪	大体大浪商	
9	泉 翔	2	北海道	旭川商業	※ブロック枠A ブロック1位の都道府県 手順④
10	飯高 孝規	2	福島	東日大昌平	
11	小川 哩夢	1	栃木	作新学院	
12	上原 翔大	2	福井	鯖江	
13	横山 大輝	1	岐阜	済美	
14	平本 怜	2	大阪	清風	
15	小林 立	1	岡山	関西	
16	奥田 拓哉	2	愛媛	新田	
17	山田 藏之輔	2	鹿児島	市立出水商業	
18	山本 琉生	1	北海道	東海大付属札幌	※ブロック枠B（普及枠） ・参加できる都府県を増やす よう配慮 ・各ブロックの判断により、 1枠を種目別出場に替 えることも可能 手順⑤
19	山本 杏真	1	青森	弘前学院聖愛	
20	奈良 晁希	1	山梨	県立上野原	
21	上田 聖真	1	新潟	加茂	
22	梅村 蕾東	2	三重	暁	
23	鈴木 心	2	兵庫	姫路商業	
24	本宮 颯人	2	広島	崇徳	
25	小川 拓真	2	徳島	小松島	
26	荒牧 靖	2	福岡	九州国際大付属	
27	曾根 銘斗	2	神奈川	湘南工大附	
28	中江 遥斗	2	滋賀	栗東	注2 手順⑦
29	落合 遥生	1	茨城	茗溪学園	協会推薦
30	宇都宮 昂	1	埼玉	埼玉栄	注3 開催都道府県

2班（午後に競技）						
No.	選手名	学年	都道府県	学校名	解説	
31	角皆 友晴	2	千葉	市立船橋	※No.31～No.42は、全国総体 個人1・2年生上位12名 手順①	
32	福林 玄輝	2	大阪	清風		
33	吉田 優生	2	栃木	作新学院		
34	片山 空秋	2	栃木	作新学院		
35	寺島 優雅	2	福井	鯖江		
36	坂東 優星	2	千葉	市立船橋		
37	山崎 海音	2	鹿児島	市立出水商業		
38	阿部 健芯	2	東京	日体大荏原		
39	葛西 太夢	2	京都	洛南		
40	小島 埜和	1	大阪	清風		
41	吉良 学人	2	香川	高松北		
42	北本 爽真	2	大阪	清風		
43	馬場 央太	2	千葉	市立船橋	※No.43～No.50は、全国総体 上位8チームの都道府県 手順③	
44	福島 琉斗	2	大阪	大体大浪商		
45	石原 銀河	2	栃木	作新学院		
46	山寺 健太	2	岡山	関西		
47	細川 天良	1	京都	洛南		
48	田中 漣	1	宮城	仙台大明成		
49	小松 幹明	1	東京	日体大荏原		
50	坪井 勇樹	2	福井	鯖江		
51	梶原 立暉	2	宮城	仙台大明成		※No.51～No.60は、全国総体 個人1・2年生上位12名を除 く、10名。但し、1・2年生 は本人で、3年生は都道府 県。 手順② 1・2年生を上位（No.51）から 並べ、下位に3年生を並 び替える。
52	西 湊丞	2	千葉	市立船橋		
53	太田良 伊吹	2	千葉	市立習志野		
54	小池 寛泰	2	岡山	関西		
55	角谷 太樹	1	千葉	市立船橋		
56	工島 佑心	2	大阪	清風		
57	堂徳 椋馬	1	福井	鯖江		
58	河野 将之	2	岡山	関西		
59	馬場 崇士	2	栃木	作新学院		
60	宮本 高慶	1	宮城	仙台大明成		

注1 総体1位の都道府県の所属するブロック に与える。但し、参加できる都府県を増やすように配慮すること。

注2 日本体操協会推薦選手としてNo.28～No.29. に2名の出場権を与え、2班で抽選する。推薦選手がない場合には全国総体チーム成績2位、3位の県のブロックに各1枠を配分し、1班で抽選する。このブロック枠も参加できる都府県を増やすように配慮すること。協会推薦があった場合、順次、資格No.28・29とNo.59・60と交替して、協会推薦選手を2班で抽選する。

注3 全ての手順を経て、No.30以外の上場枠が確定された後に開催都道府県枠を決定する。